

〈はじめに〉

ことばのテーブル学習会に、ご来場いただき、ありがとうございます。

今回は、初めての試みとして、ご参加の皆様を広く募らせていただきました。その第1回となる学習会のテーマとして設定したのが、「キーワードから考えることばの学習」です。特定の学習領域や発達障害をテーマとしなかったのは、ことばの習得やその学習方法全般に共通する事柄をお話しすることが、このような催しの端緒として大切なのではないかと考えたからです。

さて、そのキーワードですが、認知科学研究においても、日々新しい語句が産み出されています。「フォールディング」「アフォーダンス」「メンタルレキシコン」… そういえば、ちょっと前には「ファジイ」などという言葉も流行りました。“キーワード”という概念は、自分の考えをまとめたり、また、わかりやすく人に伝えたりするために、欠かせない存在だと言えます。

新しい何か、に名前をつける。それは、子どもの言語習得の基本となる活動でもあります。今回のお話の中でも触れる部分ですが、モノの名前を知る、覚える、という行為は、それまで造り上げてきたことばの地図を、新しく上書きし、次のことばの獲得のための架け橋を築くものです。白紙にペンで○を描くと、○という図形が浮かび上がるとともに、○の外の広がりや形も意識されるように。

キーワードとされるものが、太字で記され、そこに、特別の意味や、ときには思いが付与されるのは、名詞(キーワードは名詞がほとんどです)の持つ集約性や凝集性の力を借りて、一言では説明しにくい事象や思考に輪郭を与え、既知と未知の線引きをしたいからだと思います。創生された用語が、その後、より適切な表現に修正され、引き継がれて行くこともあります。そのプロセスも、子どもが、語の般用をより精緻化していく活動とよく似ています。世界の藪を切り拓いて、一歩前に進んで行くための道しるべ、それが、子どもにとってのワンワンやマンマなどのことばであり、何かを学んで行こうとする者にとっての、キーワードなのだと思います。

今回は、個人的な観点から、いくつかのキーワードを選び、もしくは個人的に作り、お話を進めさせていただく予定ですが、それらの語句の中でも、もっとも重要なもののひとつが「ネットワーク」や「関係性」という言葉で表現されるものではないかと思っています。様々なキーワードを考えて行くと、結局は、それらのひとつひとつを切り離して考えることはできず、それぞれが繋がりが、また重なりあっていることがわかります。人と人との間でのみ存在する「人間」の事柄である以上、それは当然のことなのかもしれません。